

2017年3月21日

国際森林製紙団体協議会（ICFPA）

### 国際森林デーを迎えて

今年の国連国際森林デーのテーマは「森林とエネルギー」です。

国際森林製紙団体協議会（ICFPA）は世界の林産品産業を代表し、同産業が生産活動に必要なエネルギーの大部分をバイオマスとして知られる生産工程で発生する副産物や森林残渣から起こし、再生可能エネルギー生産と化石燃料依存低減に大きく貢献していることをお伝えします。

炭素会計の国際基準では、樹木は成長の過程で光合成により大気中の炭素を吸収・固定するため、バイオマス燃焼によるエネルギー生産は気候変動の要因とはされていません。ICFPAはバイオマスの炭素中立（カーボンニュートラル）について支持しております（注）。

ICFPA 理事長のエリザベス・デ・カルバヘスは次のようにコメントしています。「林産品産業は、化石燃料由来製品を代替する製品を提供することもできます。社会に豊かな生活をもたらすだけでなく気候変動のさらなる緩和に貢献することができるのです」

国連食糧農業機関（FAO）によると、世界の再生可能エネルギーの構成は木質バイオマスが約40%となっており、太陽光、水力、風力によるそれを上回っています。持続可能な森林経営は国連の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals：SDGs）の達成、そしてグリーン経済の発展に重要な役割を果たします。

森林からの再生可能エネルギー供給拡大や化石燃料消費の削減を図るため、林産品産業は技術革新や持続可能な森林経営を推進しています。林産品産業のエネルギー消費に占めるバイオマスなど再生可能エネルギーの割合は、過去10年間に53%から63%へ拡大しました。

ICFPAは世界の30以上の国・地域の木材・製紙業界団体によって構成されている国際団体です。

世界の林産品産業のサステナビリティ活動についてはICFPAのウェブサイト（[www.icfpa.org](http://www.icfpa.org)）をご覧ください。

（注）バイオマスの炭素中立に関するICFPAの声明は以下をご覧ください。

英文：[http://www.jp.a.gr.jp/about/global/pdf/icfpa\\_view\\_04.pdf](http://www.jp.a.gr.jp/about/global/pdf/icfpa_view_04.pdf)

和文：[http://www.jp.a.gr.jp/about/global/pdf/icfpa\\_view\\_04\\_ja.pdf](http://www.jp.a.gr.jp/about/global/pdf/icfpa_view_04_ja.pdf)